

# 浜松城公園長期整備構想

## 資料編

平成 26 年 2 月

浜 松 市

# 目 次

資料編 .....	1
1-1 区域において検討されてきた計画 .....	1
1-2 施設状況等 .....	2
1-3 浜松城公園の整備に関連する要望等 .....	12
1-4 過去における市民意識調査の結果 .....	15
1-5 意見交換会等における主な意見 .....	18
1-6 意見交換会等におけるアンケート結果 .....	22

## 参 考

策定の経過

構想区域内の試掘調査

- ① 元城小学校校庭（旧浜松城二の丸・御誕生場）の試掘調査結果について
- ② 浜松城公園内の試掘調査結果について

## 資料編

### 1 - 1 区域において検討されてきた計画

	年度	計画 等	内容
1	平成 5 年度	浜松城公園再整備基本構想	浜松城公園の理想像を示し、今後の再整備の方針を示す基本構想を作成 (A案) 浜松城の復原を中心とした案 (B案) 自然環境の演出を中心とした案 (C案) 文化・芸術性を中心とした案 上記の3案が作成された。
2	平成 6 年度	浜松城公園再整備基本計画	平成 5 年度に策定された基本構想を元に浜松城公園の理想像を示し、今後の再整備のための基本計画を作成
3	平成 7 年度	浜松市防災公園整備計画	浜松市域全体の防災公園の計画 浜松城公園は、災害対策本部の近隣に位置し、情報拠点となる広域防災拠点公園の位置づけをされた。
4	平成 9 年度	防災拠点公園基本計画	平成 6 年度の再整備基本計画に防災機能を付与した再整備計画の作成。地元自治会と調整を重ねたが、市庁舎改築との整合を図る必要があるため、結論は出ず。 公園内を4つのゾーンに分け、その中の交流文化ゾーンの計画を行った。 (A案) 元城小を現況のまま残し、体育館跡地にメインエントランスと地下駐車場を設置する案 (B案) 元城小学校を体育館跡地に移転し元城小跡地にメインエントランスと地下駐車場を設置する案 (C案) 元城小学校を現況位置に改築し、地下に駐車場を設置し、体育館跡地にメインエントランスを計画する案 上記の3案が作成された。
5	平成 16 年度	「浜松城公園整備事業」 新市建設計画	新市合併時の浜松城公園の整備計画案 歴史ゾーンの復原整備及びメインエントランスと南エントランスの整備を計画
6	平成 18 年度	浜松城公園(体育館跡地及びエントランス区域)整備事業	体育館の撤去と体育館跡地の暫定的な整備と南エントランスの整備計画

## 1 - 2 施設状況等

### (1) 公園施設の管理運営の状況

「都市公園における利用実態調査報告書（平成 22 年度）」によると、浜松城公園の利用状況は以下のとおりである。

1) 利用者の特性
①利用者の年代は、30代から70代以上で、幅広い層に利用されている。
②居住は、市内が7割、市外・県外とで3割を占めた。他の調査対象の公園と比較して市外からの来園が最も多く、観光利用されていることがわかる。
③交通手段は、「自家用車」「徒歩」が多い。
④来園頻度は、「今回が初めて」が多く、次いで「年に数回、ほぼ毎日」であった。
2) 来園目的
①来園理由は、「利用したい施設がある、近い、緑が豊か」といった内容が多い。
②施設利用は、主に「天守閣」、「中央芝生広場」を利用している。
③利用内容は、「散歩、子供の遊び、自然や景色の鑑賞、ウォーキング・ジョギング」といった内容であった。

出典：平成 22 年度 都市公園における利用実態調査報告書（浜松市緑の基本計画の実現に向けた調査報告書）  
平成 23 年 3 月 浜松市公園緑地部公園管理課  
なお、施設管理者へのアンケート及び聞き取りも行われている。

浜松城公園内に設置されている主な公園施設の管理運営の状況を整理する。

### 公園施設（建築物を除く）

浜松城公園内に設置されている主な公園施設（建築物を除く）の管理運営の状況を整理する。

管理者	市担当 公園管理事務所 指定管理者 浜松城公園管理運営共同事業体 ※浜松城公園（現開設区域のみ）全体の施設も含めた指定管理者制度を導入（茶室松韻亭、文芸館、美術館は除く）
管理運営状況	・定期的な維持管理：巡視、清掃、除草、駐車場管理（業務委託） ・その他の維持管理：樹木管理（剪定、伐採等）、夏期は児童プール管理運営、施設の補修及び修繕 ・公園内における占用、行為の許可手続 ・浜松観光ボランティアガイドの会のメンバーが、天守閣を中心にして、来訪者に浜松城の歴史や公園の案内を行っている。天守閣内に事務所がある。

施設名称	施工年度	特性・利用状況
中央芝生広場	S54, 56	A=7,000 m <sup>2</sup> ケヤキやくスノキ等の樹木に囲まれた多目的広場。公園唯一の広々とした平坦な空間であり、軽いスポーツ等活動的なレクリエーションが行われている。防火貯水槽等の防災機能の拡充が図られている。
日本庭園	S58, 59	A=8,700 m <sup>2</sup> 自然地形の高低差と既存樹を利用して、谷間に上、中、下の三段池とそれぞれに大滝、小滝、滑滝が設けられている。回遊式の園路がめぐらされ、散策利用ができる。
作左の森 展望広場 芝生の小広場(石舞台)	S60	昭和天皇御在位 50 周年事業として、既存の樹木（ムクノキ、エノキ、クスノキ、シイノキ、サクラ）を活用した森が整備された。地名として定着していた作左の名が付けられている。 動物園跡地の丘陵部分にあたり、サクラが多く植えられ、お花見に利用されている。浜松城天守閣を眺望できる。 市制 80 周年事業として開催された薪能や、舞踏の舞台としてイベントに利用されることもある。
せせらぎ池	S61	せせらぎ 幅約 3m、水深 2～20cm、延長 120m せせらぎ池 水深 30cm、A=580.3 m <sup>2</sup> せせらぎ沿いや池の周りに樹木が植えられている。せせらぎ池では、鳥が水遊びする姿が見られる。
駐車場	H21	A=6,100 m <sup>2</sup> 体育館跡地に、大型バス 14 台、マイクロバス 4 台、乗用車 109 台、身体障害者用 4 台、思いやり 4 台の無料駐車場が整備され、公園利用者が自由に利用している。 管理人が常駐し、利用者の要望に対応している。
芝生広場	H21	A=4,500 m <sup>2</sup> 駐車場東側に芝生広場が整備され、イベント等に利用されている。



中央芝生広場



せせらぎ



せせらぎ池



石舞台

施設名称	施工年度	施設概要、利用状況																										
児童プール	S55	<p>児童用プール A=236 m<sup>2</sup> (水深 0.7m)、徒渉池 A=265 m<sup>2</sup> (水深 0.25 m)。7～8月にかけて無料で利用できる。施設の老朽化が若干目立つ。利用者数は、およそ一万人で推移しており、市内の児童プール(他5ヶ所)の平均的な利用者数となっている。</p> <div data-bbox="512 461 1414 992" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">児童プールの利用者数(年度別)</p> <table border="1"> <caption>児童プールの利用者数(年度別)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H13</td><td>11,741</td></tr> <tr><td>H14</td><td>12,792</td></tr> <tr><td>H15</td><td>12,500</td></tr> <tr><td>H16</td><td>9,656</td></tr> <tr><td>H17</td><td>9,908</td></tr> <tr><td>H18</td><td>8,824</td></tr> <tr><td>H19</td><td>9,931</td></tr> <tr><td>H20</td><td>9,161</td></tr> <tr><td>H21</td><td>9,793</td></tr> <tr><td>H22</td><td>9,774</td></tr> <tr><td>H23</td><td>9,384</td></tr> <tr><td>H24</td><td>9,937</td></tr> </tbody> </table> </div>	年度	利用者数(人)	H13	11,741	H14	12,792	H15	12,500	H16	9,656	H17	9,908	H18	8,824	H19	9,931	H20	9,161	H21	9,793	H22	9,774	H23	9,384	H24	9,937
年度	利用者数(人)																											
H13	11,741																											
H14	12,792																											
H15	12,500																											
H16	9,656																											
H17	9,908																											
H18	8,824																											
H19	9,931																											
H20	9,161																											
H21	9,793																											
H22	9,774																											
H23	9,384																											
H24	9,937																											
冒険広場	S61	A=3,322 m <sup>2</sup> 多くの丸太遊具が設置され、子どもたちが自由に利用している。幼稚園の利用もある。																										
語らいの庭	S57	A=850 m <sup>2</sup> 茶室松韻亭前の物静かな趣のある空間である。																										
鹿谷駐車場	H7、H14	A=8,700 m <sup>2</sup> (法面含む) 鹿谷庭球場跡地に、乗用車 107 台の無料駐車場が整備され、公園利用者が自由に利用している。地下に非常用貯水槽が設置されている。																										



児童プール



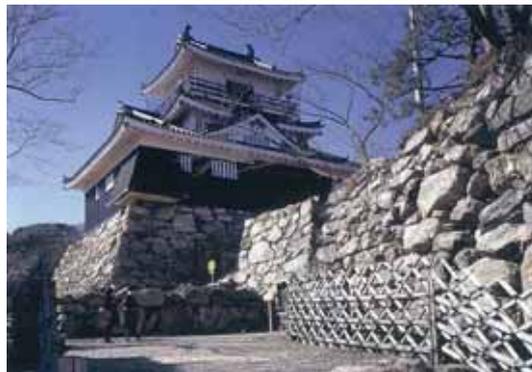
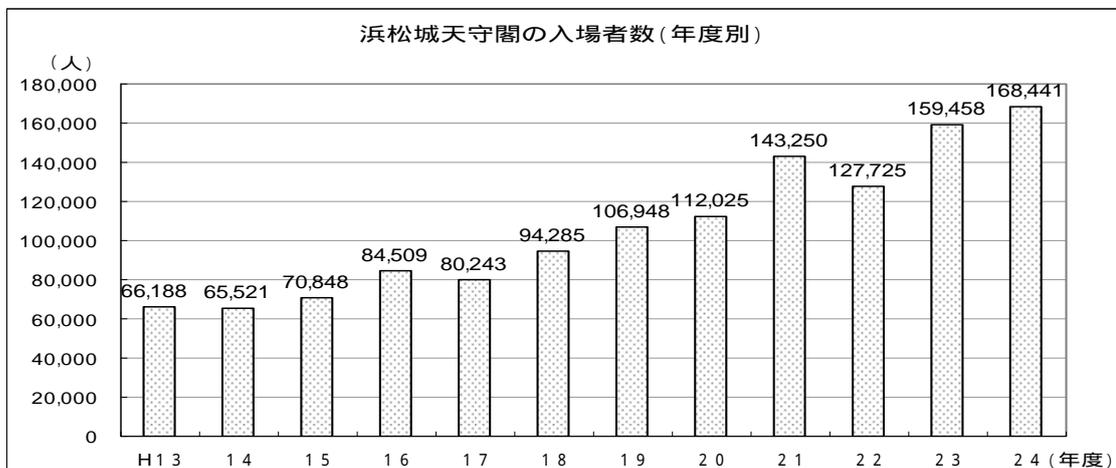
冒険広場

## 公園施設（建築物）

浜松城公園内に設置されている建築物（浜松城天守閣、浜松市美術館、浜松文芸館、浜松市茶室松韻亭）の管理運営の状況を整理する。

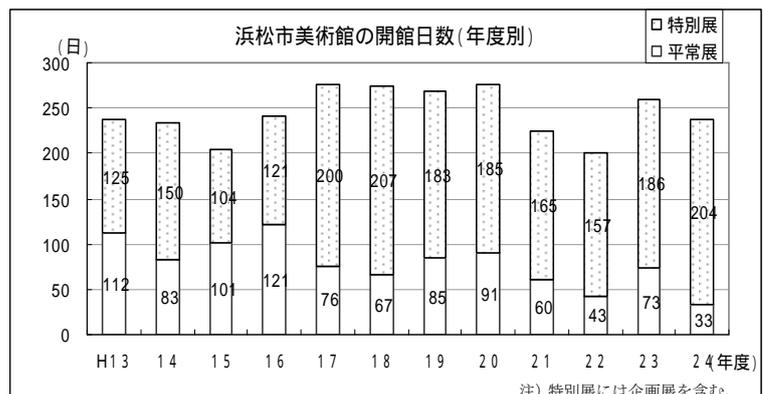
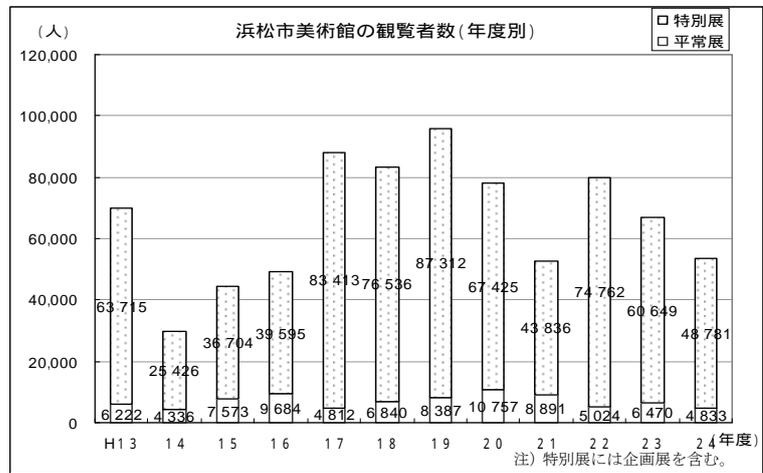
### （ ）浜松城天守閣

建物概要	<p>建築年：昭和 33 年 建築面積：163.00 m<sup>2</sup> 延床面積：311.27 m<sup>2</sup></p> <p>構造・階数：鉄筋コンクリート造 地下1階地上3階建</p>
特性・管理運営状況	<p>昭和 33 年に天守の石垣の上に復興天守閣が建てられた。1、2 階は展示資料館、3 階が展望台となっている。資料館には家康と城下町浜松にまつわる歴史的資料、武具などを展示している。展望台からは浜松市街、遠くの山並みを一望できる。</p> <p>入場料は、大人 150 円、小・中学生は無料となっている。</p> <p>浜松城天守閣の入場者は、平成 24 年度に 16 万 8 千人となり過去最高の入場者数を数えており、近年増加傾向にある。平成 18 年度からの指定管理者の導入や近年の歴史ブームが要因になっていると考えられる。</p> <p>管理は、指定管理者により、維持管理（施設管理、清掃、除草等）、運営管理（入場料徴収、土産販売、情報提供、観光ボランティアガイドと連携した利用案内・イベント等）が行われている。</p> <p>イベントは、初日の出祝い太鼓、甲冑を着た戦国武将との写真撮影、展望台からの佐鳴湖花火大会見物などが行われている。</p>
管理者	<p>市担当 観光交流課</p> <p>指定管理者 浜松城公園管理運営共同事業体（公園全体の指定管理）</p>



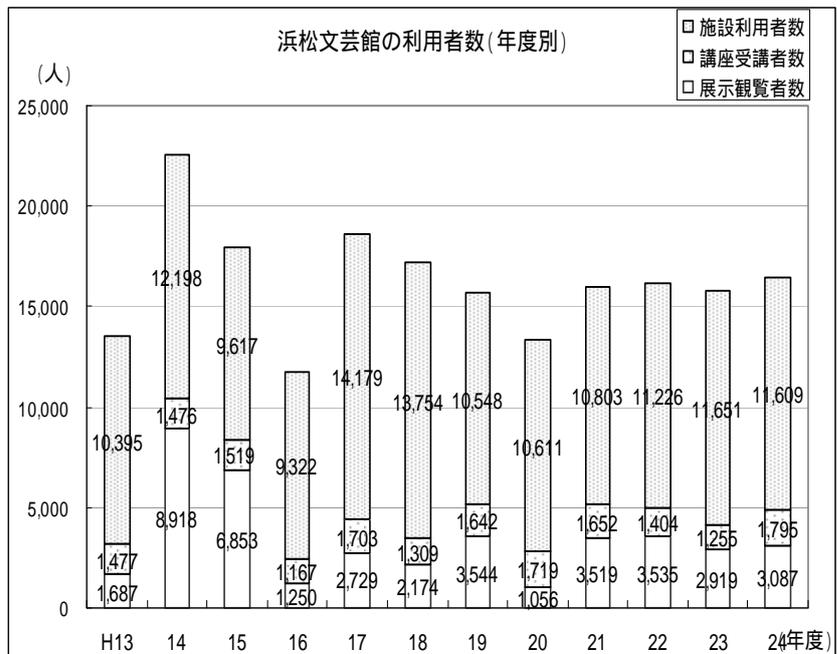
( ) 浜松市美術館

建物概要	建築年：昭和 46 年 建築面積：1,182.66 m <sup>2</sup> 延床面積：2,474.61 m <sup>2</sup> 構造・階数：鉄筋コンクリート造 2階建一部地階及び塔屋
施設特性 管理運営 状況	<p>市制 60 周年を記念して県内初の公立美術館として開館した。主な収蔵品は内田コレクションを基礎とする伝統的ガラス絵及び現代作家によるガラス絵や、浮世絵版画、中国・朝鮮の陶磁器、石仏、近現代の美術品等である。それらを紹介する平常展や多種の特別展・企画展を開催している。</p> <p>観覧料は、平常展は大人 300 円、高校生 150 円、小中学生無料、特別展・企画展開催中は別料金となる。専用駐車場は、美術館東側に隣接した駐車場 17 台、南側の第 2 駐車場 20 台がある。</p> <p>美術館の観覧者数は、平成 19 年度約 96,000 人、平成 21 年度約 53,000 人と年によってばらつきがある。これは、観覧者全体の 8～9 割を占める特別展等の内容や開館日数によると思われる。浜松市美術館は常設展示室がないため、全国の公立美術館と比べて展示替え休館が多い。</p> <p>管理は、美術館により、維持管理（施設管理、清掃等）、運営管理（美術資料収集・保管、調査研究、情報提供、展覧会開催、関連講座開催、物販等）が行われている。</p> <p>開館後約 40 年が経ち、展示室、収蔵庫や駐車場の狭小、空調設備の能力不足、市民ギャラリーや教育普及関連施設の未整備など来館者のニーズに応えられない状況にある。</p>
管理者	美術館



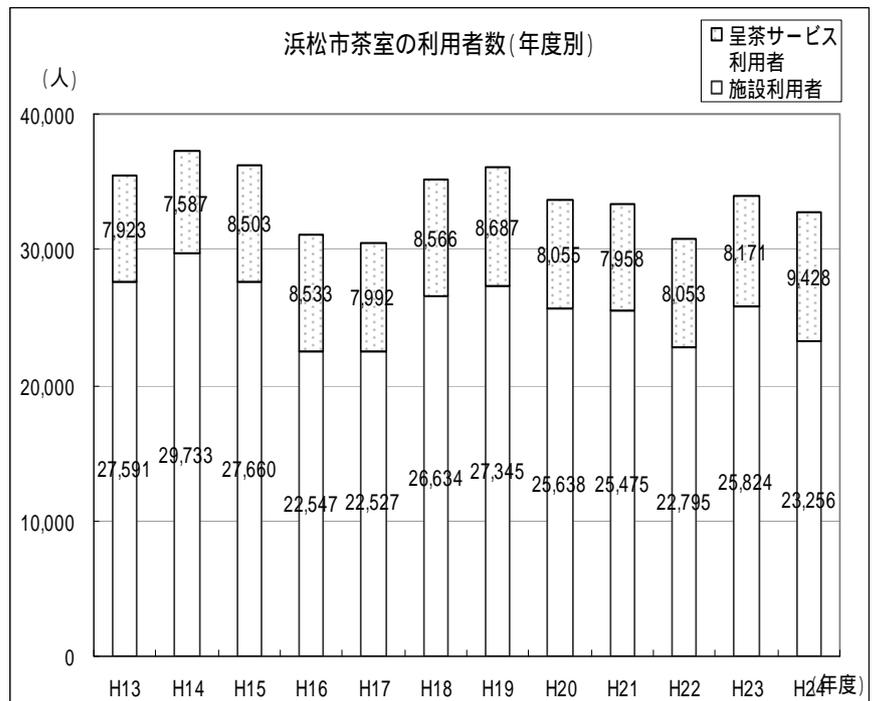
( ) 浜松文芸館

建物概要	建築年：昭和 39 年 建築面積：374.93 m <sup>2</sup> 延床面積：1,103.93 m <sup>2</sup> 構造・階数：鉄筋コンクリート造 3階建
特性・管理運営状況	<p>昭和 39 年に勤労青少年ホームとして建てられたものを、昭和 63 年 4 月に文芸館として開館した。浜松市や遠州地方ゆかりの文芸作家の資料を収集・保存している。</p> <p>浜松の文芸人の収蔵品を中心にした平常展、作家、ジャンルに視点を当てた企画展を開催したり、俳句、文学史、言葉など広い文芸分野をテーマにした講座を開催している。講座室・和室では、市民による様々な文芸活動が行われている。静かで落ち着いた環境にあるため、文化・文芸活動に集中できる場所である。</p> <p>入館料は、平常展で大人 250 円、高校生 150 円、小・中学生無料、講座室利用は有料となっている。(ただし、近年は指定管理者の申請により、大人、高校生も無料としている。)北側に専用駐車場約 25 台がある。</p> <p>しかし、建築後約 50 年が経過し、施設の老朽化等から、移転することが決まっている。</p> <p>利用者数をみると、展示観覧者は 1,000～9,000 人と特別展の内容によりばらつきが大きい。一方、講座受講者は 1,000～2,000 人、施設利用者は約 1 万人であり、10 年間を通して大きな変化はみられない。</p> <p>管理は、指定管理者により維持管理(清掃、施設管理)、運営管理(情報提供、利用調整等)等が行われている。</p>
管理者	市担当 文化政策課 指定管理者 浜松市文化振興財団(平成 18 年度～)



( ) 浜松市茶室 松韻亭

建物概要	建築年：平成9年 建築面積：362.95㎡ 延床面積：309.78㎡ 構造・階数：木造 平屋建 (※建築面積・延床面積は、敷地内の全ての建物の面積)
特性・管理運営状況	<p>杉、栗などの銘木を使用して建てられた茶室であり、第一広間(十畳)、第二広間(十畳)、立礼席を備えている。奥には日本庭園と数寄屋造りの萩庵(小間)があり、年間を通じて野草が咲き、茶室としての風情を醸し出している。</p> <p>これらはグループや団体などによるお茶会で利用されているほか、気軽にお茶を楽しめる呈茶サービスも行われている。また、お茶の楽しみ方を多くの人に知ってもらうために、茶道、伝統文化、作法等様々な文化教室も開催され、多くの人がお茶を中心とした文化に親しんでいる。</p> <p>施設・庭園の見学は無料、呈茶サービス一席400円、施設利用は有料となっている。北側に専用駐車場10台がある。</p> <p>利用者数をみると、施設利用者は22,000～30,000人で大きな変化はない。呈茶サービス利用者も変動はなく、約8,000人で推移している。</p> <p>管理は、指定管理者により、維持管理(清掃、除草、植木剪定)、運営管理(情報提供、利用調整等)が行われている。</p>
管理者	市担当 文化政策課 指定管理者 (株)虹設計事務所グループ(平成18年度～)



## (2) 浜松城公園で行われる主なイベント

浜松城公園では、年間を通じて様々なイベントが開催されている。主に中央芝生広場や駐車場及び芝生広場といった大勢の人が集まることができる広場が利用されている。

時期	イベント内容	およその利用者数	概要
3月下旬～4月上旬	さくらまつり	30,000人	本丸の広場、作左曲輪、展望広場での花見。ライトアップも行われる。(浜松市主催)
4月	メーデー	6,000人	中央芝生広場で開催
5月	メーデー	800人	中央芝生広場で開催
9月下旬～10月上旬	アート・ルネッサンス in はままつ	1,000人	中心市街地店舗や浜松城公園(中央芝生広場、石舞台、浜松城天守閣)でのアート展(浜松市美術館主催)
10月	親子ふれあい子育てフェスティバル	1,000人	中央芝生広場でブースを設置し、各種遊び体験を実施(浜松市私立幼稚園協会主催)
10月	浜松餃子まつり	100,000人	駐車場及び芝生広場で、飲食、販売の物産展を開催(浜松餃子学会主催)
11月上旬	浜松出世城まつり	100,000人	中央芝生広場で、武者行列、火縄銃演武等を開催(浜松市観光交流課主催)
11月上旬	家康楽市 in 浜松城		駐車場及び芝生広場で、飲食、販売の物産展を開催。平成24年度からは、4、7、10、11月の年4回の開催を予定(家康楽市 in 浜松出世城実行委員会主催)

資料：公園管理事務所

### (3) 周辺公共施設の概要

#### 元城小学校

校区(町名)	旭・鍛冶・千歳・大工・肴・神明・連尺・利・松城・元城・元目・池・伝馬・尾張・紺屋・常盤(新川以西)・田・北田・鹿谷(旧松城)
児童数	普通学級 237 発達支援学級 19 (平成 25 年度)
学級数	普通学級 9 発達支援学級 3 (平成 25 年度)
沿革	明治 6 元城町 138 に第一番小学校として設立 昭和 23 現在地に元城小学校として復興 昭和 30～52 鉄筋コンクリート造校舎落成 昭和 44 体育館落成 昭和 45 プール落成 平成 22 小中一貫教育研究校 指定
延床面積	校舎 5,185 m <sup>2</sup> 、体育館 807 m <sup>2</sup>
校地面積	建物敷地 8,581 m <sup>2</sup> 、運動場 8,839 m <sup>2</sup> 、総面積 17,420 m <sup>2</sup>
浜松城公園での活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を迎える会：4月に全校児童で石舞台広場にて実施</li> <li>・生活科総合学習：1,2年生が中央芝生広場を中心に公園全体を散策</li> <li>・学校周辺を調べる総合学習：3年生が浜松城の歴史を調べて、天守閣、図書館、東照宮を見学</li> </ul>

#### 中部中学校

校区(町名)	上記元城小学校区、北小学校区(中沢・下池川・山下・元浜)
生徒数	普通学級 243 発達支援学級 0 (平成 25 年度)
学級数	普通学級 8 発達支援学級 0 (平成 25 年度)
沿革	昭和 22 開校 昭和 37～48 鉄筋コンクリート造校舎落成 昭和 50 体育館落成 昭和 52 技術室、部室完成 昭和 54 50mプール完成 平成 3 柔剣道場(さくざ館)落成 平成 22 小中一貫教育研究校 指定
延床面積	校舎 5,093 m <sup>2</sup> 、体育館 1,086 m <sup>2</sup>
校地面積	建物敷地 11,937 m <sup>2</sup> 、運動場 11,039 m <sup>2</sup> 、総面積 22,976 m <sup>2</sup>
浜松城公園での活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月お花見弁当：全校生徒で中央芝生広場にて実施</li> <li>・理科の授業：クラスごとに中央芝生広場で自然観察</li> <li>・部活動：週3回程度のランニング</li> <li>・総合学習「さくざ学習」：グループ毎に各町の中心市街地活性化のアイディアをまとめる一環として、町名の歴史を調査</li> </ul>

浜松市役所 市庁舎

敷地面積	16,092.28 m <sup>2</sup>
構造	【本館】鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上8階地下2階 塔屋 【北館】鉄筋コンクリート造 地上5階
竣工年	【本館】
延床面積	昭和55 延床面積：26,955.64 m <sup>2</sup> 建築面積：3,360.98 m <sup>2</sup>
建築面積	【北館】
	昭和27 第1期 延床面積：7,519.40 m <sup>2</sup>
	昭和29 第2期 938.36 m <sup>2</sup>
	昭和34 第3期 3,411.47 m <sup>2</sup>
	昭和41 第4期 3,960.70 m <sup>2</sup>
	昭和48 第5期 322 m <sup>2</sup>
	昭和53 第6期 104.4 m <sup>2</sup>
	昭和53 解体工事 △4,598.11 m <sup>2</sup>
	昭和53 第7期 139.2 m <sup>2</sup>
	昭和56 解体工事 △2,655.23 m <sup>2</sup>
	平成16 解体工事 △5,440.09 m <sup>2</sup>
	計 3,702.10 m <sup>2</sup> 建築面積：750.39 m <sup>2</sup>

浜松市役所 駐輪場

建物概要	構造：鉄骨造2階建 延床面積 688.37 m <sup>2</sup> 建築面積 382.40 m <sup>2</sup>
備考	今後、解体する予定

### 1 - 3 浜松城公園の整備に関連する要望等

	年月日	要望者	内容
1	H19. 7. 26	中央地区自治会	市制施行 100 周年記念事業として浜松城天守閣の再建について (要望) ・木造天守閣の再建に向けて市民を含んだ検討委員会の設置 ・木造天守閣の再建に向けて調査費(基本設計費)の計上 ・市民の浄財の受け皿となる「浜松城天守閣再建基金条例」の制定
2	H20. 5. 30	浜松商工会議所	浜松城公園内に県営文化施設設置方要望について (静岡県への3件の要望の中のひとつ) 公園内の新たな文化施設を静岡県が設置することを要望
3	H22. 3. 30	浜松城の再建と 街道文化研究会	浜松城再建に関する提言 市民等の有志から、浜松城址を含む区域を歴史・文化の中心、観光・産業情報発信の拠点として再生する具体的な計画の提言 (骨子) ・城址域全体について、中長期的見地に立って再整備する。 ・観光・産業情報を提供する、国際情報センターを城址跡に設置する。 (具体案) PLAN-A、Bの二つの案に取りまとめ ・木造天守閣と二の丸の再建 ・文化・芸術施設の整備、統合、拡充 ・伝統文化館、観光情報センターの設置 ・小中一貫校、駐車場の整備 ・JR浜松駅からの徒歩アクセス路の整備 ・観光主要ポイントの標識整備
4	H22. 6. 11	中区協議会	浜松城公園周辺整備の方向性 中区協議会より浜松城周辺整備の方向性や進捗に対する質疑 ・歴史ゾーンの復原整備の進捗状況 ・体育館跡地のトイレ整備について ・浜松城公園の全体整備計画について
5	H23. 2. 22	浜松市立中部中 学校区小中一貫 校協議会	中部中学校区小中一貫校について(要望) ・小中一貫校を校区の中央部に設立する ・市内のどこからでも通える特認校とする ・市内全域からの通学に考慮して、校地を学区の中央に当たる元城小学校と体育館跡地を合わせたものを基本とする ・北小学校跡地はスポーツ施設、避難地として活用できるよう整備する ・開校はできる限り早期にし、平成27年度を目標とする

	年月日	要望者	内容
6	H23. 12. 21	中区協議会	<p>浜松城公園の魅力向上に向けての提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造天守閣の復元と史実に基づいた周辺施設の整備</li> <li>・浜松城に関係する資料を展示する博物館の建設</li> <li>・イベントの開催や防災活動を見据えた多目的ドームの建設</li> <li>・美術館や茶室松韻亭なども含めた、総合的な視点での施設の整備</li> <li>・家康にまつわる観光タクシーの配備</li> <li>・お城まつりなど家康に関係したイベントの定期的な開催</li> <li>・歩いて楽しい歴史の街づくりの企画</li> <li>・城の観光客を町なかに誘致するマップ作りやイベント開催</li> </ul>
7	H24. 1. 13	中区自治会連合会	<p>セントラルパーク基本構想の策定への意見</p> <p>《中央地区連合自治会長》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルパークのコンセプトを明確にする</li> <li>・基本構想決定プロセスへの問題提起</li> <li>・検討会委員の構成が適正でない</li> <li>・文化センター設置について</li> <li>・新美術館のコンセプトは明確に</li> <li>・これまでの検討委員会の議事録について公開を</li> </ul> <p>《駅南地区自治会連合会会長》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東海大地震等の予想がある中、人命第一の対策を進めること</li> <li>・市民が誇る公園を作るには、市民協働で進めるべきである</li> </ul> <p>《城北地区自治会連合会会長》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校の設置場所は、地元の希望を尊重する</li> <li>・現浜松城の計画は他都市に比べ、特徴のあるもの</li> <li>・自治会参加方策について</li> </ul> <p>《富塚地区自治会連合会会長》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状問題について</li> <li>・構想について詳細が不詳で、マスコミ報道から推定している</li> <li>・他事業との優先について議論は</li> </ul>
8	H24. 1. 20	中区自治会連合会	<p>セントラルパーク構想について（要望）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構想推進について、徹底した情報公開</li> <li>・構想推進に多くの関係者の参画を（特に自治会の参画）</li> <li>・構想、実施は急がないこと</li> </ul>

	年月日	要望者	内容
9	H24. 1. 24	中区自治会連合 会	セントラルパーク構想検討会への意見書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルパーク基本構想策定段階での自治会の参加を希望</li> <li>・構想検討会は公開として行い、議事録をとること</li> <li>・セントラルパークの位置づけとコンセプトを明確にすべき</li> <li>・諸施設の必要性等は市民、地域住民の意見を聞き基本構想に取り入れるべき</li> </ul>
10	H24. 2. 14	浜松美術協会	セントラルパークおよび新美術館建設についての要望 <ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルパーク構想検討会の内容の公開</li> <li>・多くの市民の意見が反映されるよう配慮、工夫すること</li> <li>・新美術館基本構想の具体化をどのように進めていくのか</li> </ul>
11	H24. 3. 13	浜松商工会議所	「浜松市新美術館」建設に関する提言書 ～「創造都市 浜松」にふさわしい文化拠点の創設を～ <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 4 月 1 日（政令市移行 10 周年）に併せて開館する提言</li> <li>・他の文化施設との連携に優れ、移動動線にも配慮した、浜松城公園などの都心の適地への建設を提言</li> <li>・静岡県立美術館など県内有力美術館に匹敵し、市民が誇ることができる規模にて建設することを提言</li> <li>・新美術館の館長には、世界的な広い視野と、美術についての深い見識を持つ、知名度の高い第一人者を招聘することの提言</li> <li>・多機能・高機能を併せ持つ施設にする提言</li> </ul>
12	H24. 12. 12	浜松市立中部中 学校区小中一貫 校協議会	中部中学校小中一貫校建設に関する要望書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設場所を現中部中学校に公園用地を追加した 3.4ha とすること</li> <li>・新校建設に際し、住民の意見を反映させること</li> <li>・元城小学校校地と旧体育館跡地をエントランスゾーンとして整備をし、浜松城の眺望を確保するとの計画を尊重すること</li> <li>・新校の開校は 29 年 4 月とすること</li> </ul>

## 1 - 4 過去における市民意識調査の結果

### 市民意識調査

#### 緑の基本計画策定に向けた市民アンケート（平成 19 年度）

市民の緑に対する意識・意向を明らかにするため、20 歳以上の市民 3,000 人を対象にアンケート調査を実施している。「浜松らしい緑」と「次の世代に残したい緑」に浜松城周辺の緑を挙げる回答が最も多く、浜松城周辺の緑を市民のシンボリックな緑として保全、整備したいという意向が読み取れる（平成 19 年 11 月 2 日～11 月 16 日、回収数 1,171 人、回収率 39.0%）。

#### 都市公園における利用実態調査（平成 22 年度）

都市公園の新たな運営管理指針「パークマネジメントプラン」立案に向けた基礎資料収集を目的として調査が行われている（平成 23 年 1 月 24 日～3 月 31 日、浜松城公園を含む 5 公園の現地聞き取り調査、浜松城公園の調査数 12 日 265 枚）。主な意見は以下のとおりである。

#### 問題点

「特に不満は無い」46%

#### （ ）整備について

- ・園内の施設が老朽化している・・・ベンチ、遊具、トイレ
- ・園内及び浜松城公園までの誘導・案内、駐車場案内が分かりにくい  
・・・誘導・案内サインのデザインの不統一、表記の仕方
- ・園路が歩きにくい  
・・・石段の段差が大きい、石畳の凹凸

#### （ ）運営管理について

- ・犬の飼い主の利用マナーの悪さ（糞の後始末、放し飼い）

#### 要望内容

#### （ ）施設や樹木に関すること

- ・休憩施設や売店等の充実を望む声が多く、他に遊具・展示施設・駐車場の充実、駐輪場整備といった内容であった
- ・ユニバーサルデザインの配慮は、主にトイレや園路に要望
- ・天守閣や石垣の野面積みを目立たせる植栽の工夫が必要
- ・季節感のある植栽の要望

#### （ ）運営管理に関すること

- ・公園灯まわりの樹木の枝の伐採の要望・・・枝の生い茂りで暗い
- ・園内の情報提供の充実の要望
- ・浜松城公園の魅力 PR の強化の要望
- ・周遊コースの設定と案内の要望
- ・公園の利用ルールの徹底の要望・・・芝生広場でのボール遊び禁止、ペットの放し飼い禁止
- ・タバコのマナーは「全面禁煙」が最も多かった
- ・野良猫などへの餌やりは「一切禁止」が最も多かった

#### 運営管理への参加

- ・ボランティア活動へ参加したいが56%であった
- ・活動内容は「清掃」が最も多く、次いで草や木の管理、花壇の管理であった

下記の施設管理者へのアンケート及び聞き取り調査も行われている。

- ・浜松城公園 財団法人浜松公園緑地協会
- ・浜松城天守閣 遠鉄アシスト（株）、ホテルコンコルド浜松
- ・浜松文芸館 浜松市
- ・茶室松韻亭 （株）虹設計事務所
- ・浜松市美術館 浜松市

**浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画策定に向けた利用者・関係団体ヒアリング（平成22年度）**  
 歴史ゾーン整備基本計画策定に向けた意見集約を図ることを目的として、利用者へのヒアリング調査が行われている（平成22年5月29日（土）、7月25日（日）、104件）。主な意見は以下のとおりである。

#### **ガイド・案内**

- ・中心市街地からの案内が不十分、駐車場の案内がわかりにくい、入り口がわかりにくい
- ・園内のルートがわかりにくい
- ・ボランティアガイドの説明はわかりやすい

#### **施設・樹木**

- ・駐車場が少ない(美術館)
- ・売店、市民向けカフェが欲しい、休憩する場所の充実
- ・樹木管理（伐採、剪定）は、石垣保存や景観保全のため、場所を限定して行うのであれば賛成
- ・高齢者、車椅子利用者でもスロープで公園全体を回れるようにしてほしい

#### **歴史**

- ・石垣のよさが伝わらない
- ・天守閣の案内・展示は、本物がなく、一般的な展示しかない

#### **企画・イベント**

- ・家康・三方原合戦に関するイベント、歴史クイズ、浜松城のPRグッズの配布
- ・その他、食や農業関係、自然学習、音楽などのイベント
- ・観光に寄与するイベント、地域の人と一緒に活動できるイベント

#### **情報発信・宣伝**

- ・ホームページの充実、映像の充実
- ・三方原合戦、家康をPR
- ・周辺の関連する資源、史跡の紹介

#### **その他**

- ・鳥、犬のフンの清掃
- ・掛川城と比較するとくつろげない、周辺部が良くない

下記の浜松城公園を管理、利用する関係団体 5 団体へのヒアリング調査も行われている。

- ・浜松観光ボランティアガイドの会
- ・ホテルコンコルド浜松（浜松城天守閣指定管理者）
- ・市立元城小学校
- ・市立中部中学校
- ・浜松市公園管理課

## 都心のまちづくりに関するアンケート・ヒアリング調査結果から（構想関連）

### 市民アンケート調査

毎年度実施している市民アンケートで、都心のまちづくりについて調査を行った。

調査地域 浜松市全域

調査対象 満 20 歳以上の男女 3,000 人

■都心エリアのまちづくりについて、都心において歴史や文化を活かしたまちづくりを進めるためにはどのようなテーマが重要だと思いますかという問いに対する回答

- ・「産業や匠の技術を中心としたまちづくり」が 29.9%と最も高く、次いで「浜松城や東海道を中心としたまちづくり」25.6%、「アートや音楽を中心としたまちづくり」20.3%、「花や緑を中心としたまちづくり」16.5%であった。浜松市の特性として、「産業や匠の技術」への関心が若干高いものの、「浜松城や東海道」「アートや音楽」などにも同程度の関心を抱いていることがわかる。

今後、浜松固有の資源を活かした“浜松らしさ”のあるまちづくりを進めることが重要といえる。

### まちなか関係者ヒアリング調査結果（中間報告）

中心市街地の商業者・事業者へのヒアリング調査結果

主なヒアリング対象：商店界連盟、個別商店街、大型商業施設、駐車場オーナー、浜松まちなかにぎわい協議会事務局等

■都心を活性化させるために新たにに取り組むべきだと思われることについての回答

文化的な都心再生について

- ・中心市街地の活性化は商業だけでは無理。商業は、にぎわいができれば付いてくるもの。これからは産業振興や地域資源を活用した活性化、どのように住む人を増やすかの視点が重要になってくる。
- ・構想に期待。同構想とリンクしたサービスを提供できるのは街中の商業者・事業者であり、都市型観光に必要な情緒的価値を作り出し、来街者のまちなかへの滞在時間を伸ばしたい。

## 1 - 5 意見交換会等における主な意見

浜松城公園長期整備構想にかかる意見交換会

- ・地域情報センター 12月19日(水) 19:00～20:30 参加者 37名
- ・雄踏文化センター 12月21日(金) 19:00～20:30 参加者 10名
- ・なゆた・浜北 12月25日(火) 19:00～20:30 参加者 12名

市内3箇所において意見交換会を実施し、長期整備構想にかかるご意見をうかがい内容を項目別に整理した。

### 長期整備構想の考え方について

- ・ 既存の歴史ゾーンの拡大という発想が必要では、100年の計を考えるのであれば、長期的に俯瞰する考えが必要。
- ・ 公園を4つのエリアに分けるのではなく、もっと大きなエリアとして考えるべきである。
- ・ 3つの基本方針の主語を市民に変えて欲しい。「市民が歴史を学べる公園」「市民が財産として誇れる公園」「市民が楽しみ成長できる公園」として欲しい。
- ・ ゾーンの一体感が感じられない。
- ・ 観光地化の整備をして欲しい。
- ・ 市民に公園のコンセプトが伝わっていない。
- ・ 観光として売り出しているようだが、憩いの場が無くなってしまわないかと危惧している。
- ・ 歴史ゾーンを作る考えと緑地を生かす考えがあるが、この両者はかみ合わせが悪いと考える。
- ・ ゾーンに分ける必要性がわからない。メインがわからない。
- ・ レクリエーションゾーンと賑わいと交流ゾーンの違いがわからない。
- ・ 浜松城は必要だと思うが、ゾーンを決める必要はない。
- ・ お城を中心とした公園とし、例えばゾーン名称を二の丸ゾーン等と名付け、レクリエーション活動にも利用できますという考えの方が良いのでは。
- ・ 全体を浜松城として一体として整備(考える)すべきだと考える。
- ・ お城の整備にあたっては、貴重な樹木は保護しつつお城の景観に配慮していく視点が必要。
- ・ 浜名湖圏の観光として考えると、車での利用となり、観光客はバス利用であろう。魅力を挙げながら、足の便をよくして行く必要がある。
- ・ 市役所庁舎によって、浜松城が見えないのは問題。
- ・ 様々な情報発信を行う等、情報を得るための公園という位置付けであれば良いのでは。
- ・ 市民の憩いの場は、他にもいろいろな公園があるので要らないのではないか。
- ・ 構想の内容が欲張りすぎである。いろいろなものを盛り込みすぎである。

## 公園の整備について

- ・ 最低限の整備をすれば、公園としてみれるのではないのか。
- ・ 花が少なく、紅葉も少ない。イチョウの木が少なくなったのではないか。
- ・ 浜松城を伝えるインフォメーション機能を整備して、総構えをわかるようにすればよいのでは。
- ・ 園路等を市民みんなで整備をすれば良いと思う。
- ・ 車椅子でも利用できる環境整備をして欲しい。
- ・ 整備にあたっては、ニセモノを作らないで欲しい。
- ・ 浜松城は模擬天守閣があることで、城郭ファンとしては残念である。石垣だけの方が良い。
- ・ イベント時には駐車場が足りない。周辺の駐車場との連携があるとよい。
- ・ 駐車場はなく、公共施設も遠く、しかも坂が多いため、年寄りには動きがとれない。
- ・ 来訪者にとって美術館や公園の駐車場がわかりづらい。

## 公園の運営等について

- ・ 公園に何があるのかわからない。どういう使い方が出来るのかわからない。情報不足。
- ・ 既存施設、遊具の管理が出来ていない。
- ・ 浜松駅から浜松城まで行く道中が面白くなければいけない。浜松には、参道(メインストリート)がない。
- ・ 胸がドキメクような事が公園にない。
- ・ いろいろな事が学べる場が必要。
- ・ 公園に感心を持ってもらえるためにも人づくりが必要。
- ・ 浜松城公園の事についてアピールすることが必要。

## 市民参画について

- ・ 箱物を作るのであれば、市民が意見を言う場が必要。
- ・ 民間の知恵も入れながら進めていくのが良いのでは。
- ・ 中心部の市民のものだけでなく、他地域の市民も良いものができたという誇れるものにして欲しい。
- ・ 整備を行う前に、市民が整備について判断できる情報を提供して欲しい。

## その他

- ・ 歴史を語るのであれば、しっかりと歴史を調べるべきである。
- ・ 公園は単発的なイメージがある
- ・ 浜松城に足りないのは、迎える人だと思う。人間に焦点を当てて欲しい。
- ・ 浜松城には特徴がない。

区協議会での報告によるご意見

- ・中区、東区、浜北区 12月20日(木) 13:30～
- ・南区、北区、天竜区 12月21日(金) 13:30～
- ・西区 12月26日(水) 13:30～

区協議会において報告を行い、長期整備構想にかかるご意見をうかがった内容を項目別に整理した。

### 長期整備構想の考え方について

- ・ 北側部分は、学校ゾーンにしてはどうかと思う。
- ・ 長期構想とは言っても、具体的に期日を決めて事業を進めた方が良いのではないと思う。
- ・ 結論を急ぐ必要はない。構想は持続して、継続していただきたい。
- ・ 開発ではなく、できるだけ自然を生かした計画にしていきたい。
- ・ 市民文化創造について具体的な計画がない。
- ・ 目的や用途に応じたエリア構成をすることに関しては賛成である。
- ・ 浜松の象徴的な場所を防災エリアとして使用することにも意義がある。

人を集めたいということであれば、まず美術館やホールなどの施設を整備して、人が集まる場所をつくるべきであると思う。

浜松には多くの歴史があるので、その歴史を知ることができるような公園にさせていただくとともに、より観光面にも力を入れていただきたい。

例えば公園を囲う道路の内側すべてを構想の対象にするなど、範囲を広めた中で計画してもよいのではないかと。

将来的なビジョンで計画するのであれば、現在分散している科学館や楽器博物館などの市を代表する施設を、公園内に移設することも検討すべきと考える。

- ・ 交通アクセス等の周辺道路や駐車場等の交通状況も把握して計画してほしい。
- ・ 公園は市民のためか？外部の人(観光)が来る公園か？はっきりする必要がある。
- ・ 例えば、災害時の公園のあり方等、目的をもった公園として考え方が必要。

現状の浜松城公園は、貴重な資源として活かされていらないため、浜松市を広く発信し得る公園として整備すべきであり、そのコンセプトは浜松市の中心部ばかりでなく、全市的に波及するようなものとするを望む。

- ・ 地域への愛着を深めるためにも、子ども達の成長の拠点となり得るような公園整備を望む。

商店街を伸ばす等、歩いてもらう間が商店街であるとか、地下道で結ばれていて雨が降っても傘がいらぬなど、総合的に開発していく考えが必要。

歴史ゾーンのところ天竜の二侯城のことも入れて、浜松市全体へ広まり、それがPR出来るような仕組みで、他の区まで足を延ばしていく気持ちが広まっていくような形にしていきたい。

## 公園の整備について

- ・ 市民ランナー用の周遊道路の整備をして、市民ランナーが使えるようにしたらどうか。
- ・ トイレについて、現状は利用者に対して設置数が足りないし、老朽化が目立つ。
- ・ 中央に一つの公園も結構だが、もっと各地に公園を作ってほしい。
- ・ 公園内は坂も多いため、高齢者でも利用しやすいような構造にしていただけるとありがたい。
- ・ 外国語の案内標記がもう少し必要であると思う。
- ・ 他の電車がある都市とは違うので、大きな駐車場が必要。地下駐車場もひとつの方法。
- ・ 駐車場がないのでその点の整備をしないと人が集まらない。
- ・ 駐車場の問題とか、子供が遊べる広場などの整備を計画に取り組んでもらいたい。

## 公園の運営等について

- ・ 整備されたらPR、広報をしっかりとってほしい。
- ・ 家康公が浜松城を築城した背景等がわかるようにしてほしい。
- ・ ソフト面の管理運営の組織を十分に考えてほしい。

## 市民参画について

- ・ 浜松城公園は市の観光拠点であり、市民にとって重要な案件であるので、委員の意見を参考にさせていただくとともに、市民の意見を尊重して整備を進めていただきたい。
- ・ 構想への市民参加の観点から、市民や企業の出資等を募ることも検討されたい。

## 1 - 6 意見交換会等におけるアンケート結果

意見交換会実施日に意見記入用紙によるアンケート調査を実施した。

実施日：地域情報センター【平成24年12月19日（水）】回答者数26名

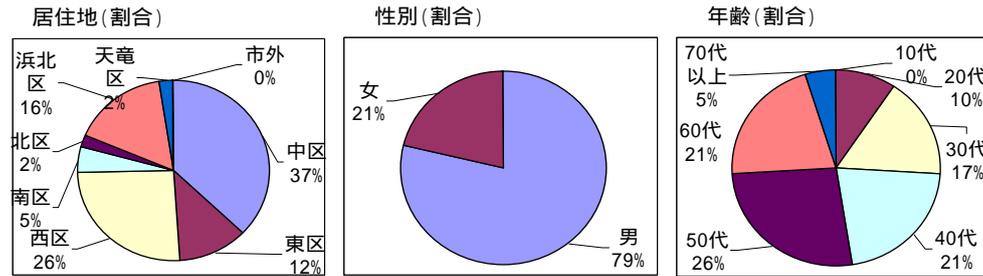
雄踏文化センター【平成24年12月21日（金）】回答者数7名

なゆた・浜北【平成24年12月25日（火）】回答者数10名

### 浜松城公園長期整備構想にかかる意見交換会で実施した意見記入用紙の集計結果

#### 回答者の属性

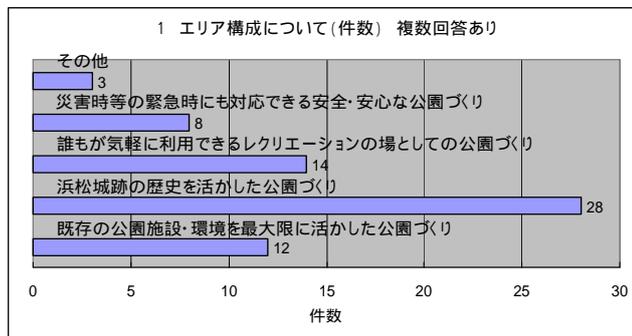
回答者数 43名(地域情報センター 26名、雄踏文化センター 7名、なゆた・浜北 10名)



#### 「浜松城公園の長期的整備に向けた考え方」についての設問

##### 設問 1 エリア構成(ゾーニング)について

長期的整備に向けた考え方では、対象地域の地形、歴史的な空間の役割、現状の土地利用、今後期待される役割等を考慮し4つのゾーンに区分しました。これからの浜松城公園を考える上で最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

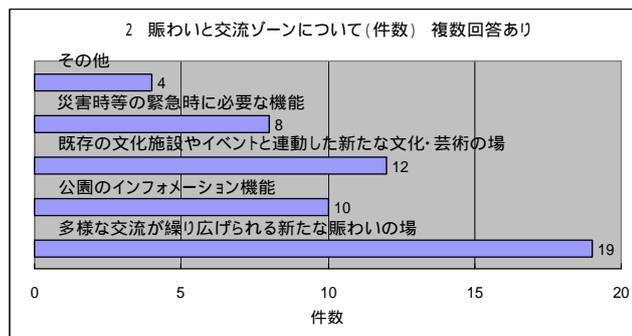


##### 設問の自由意見(抜粋)

- ・市民活用と観光の2つの側面が必要。
- ・観光も大事だが、市民が親しんで使える場所に。
- ・色々な目的に活用できるオープンスペースが重要。
- ・どこからでもお城が見える事が大切。
- ・浜松城に特化したエリア整備をしていくべき。
- ・災害時に自然エネルギーを活用できるようにすべき。

##### 設問 2 賑わいと交流ゾーンについて

賑わいと交流ゾーンは、公園のエントランス機能と来園者の賑わいと交流の場を形成するゾーンとして考えています。賑わいと交流ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

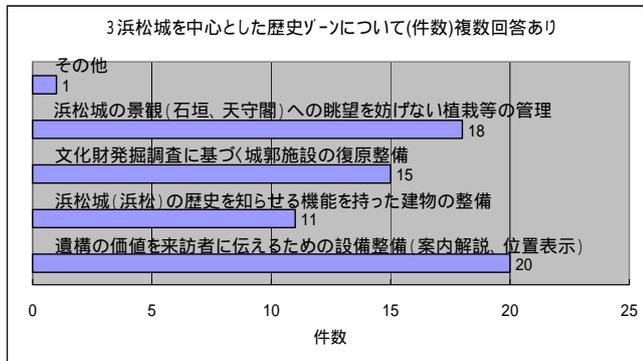


##### 設問の自由意見(抜粋)

- ・各ゾーンがつながりをもち、響きあう機能が必要。
- ・市民活動や弱者のゾーニング作り、居場所づくりに関して盛り込まれていないのは、残念。
- ・新たな植栽。
- ・静かな公園が必要。

**設問 3 浜松城を中心とした歴史ゾーンについて**

長期的整備に向けた考え方では、浜松城の史跡としての価値をPRし、次世代へ継承し、訪れる人々がその価値を学び理解できるゾーンとして考えています。浜松城を中心とした歴史ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

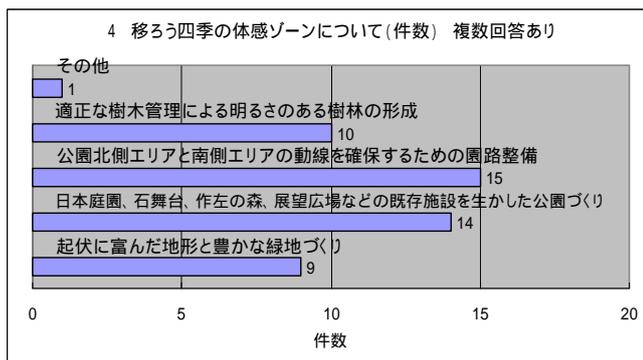


**設問の自由意見(抜粋)**

- ・堀の復活。
- ・城が見えるよう桜以外の木はなくしてはどうか。
- ・案内員の配置。
- ・インフォメーション機能、GPSと組み合わせ携帯電話を案内板代わりに。
- ・樹の伐採は最小限に。

**設問 4 移ろう四季の体感ゾーンについて**

長期的整備に向けた考え方では、起伏に富んだ地形と豊かな植生を活かした、うるおいの場としての快適なみどり空間を形成するゾーンとして考えています。移ろう四季の体感ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

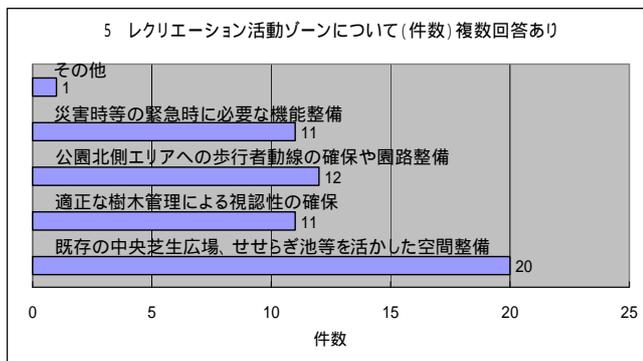


**設問の自由意見(抜粋)**

- ・バリアフリーのゾーニングが必要。
- ・浜松地域特有の植物を植栽すべき。
- ・歴史ゾーンとの連携。

**設問 5 レクリエーション活動ゾーンについて**

長期的整備に向けた考え方では、開放的な空間を活かした、誰もが気軽に利用でき、レクリエーション活動の拠点として展開できるゾーンとして考えています。レクリエーション活動ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

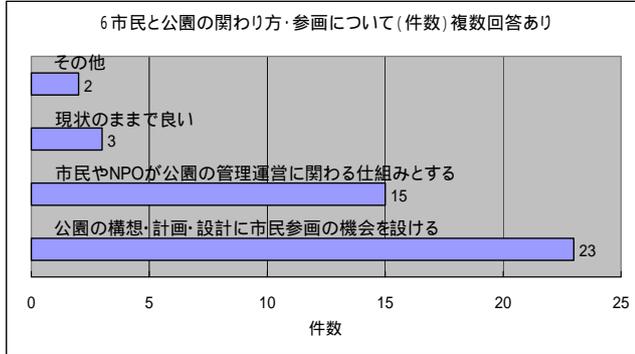


**設問の自由意見(抜粋)**

- ・静かで落ち着いた公園が必要。
- ・賑わいと交流のゾーンの一部を加えてこのゾーンを広く取る。

**設問 6 市民と公園の関わり方・参画について**

長期的整備に向けた考え方では、様々な市民とのかかわりの中で着実に地域に根付く公園の形成を考えています。そのために必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)



**設問の自由意見(抜粋)**

- ・市民が主体となって進める体制。
- ・市民・NPOが構想計画を行う。
- ・民間の力を利用していきべき。

**設問 7 浜松城公園に対する具体的な要望について(抜粋)**

- ・基本的に車で来園しない公園とし、便利で快適な公共交通を整備し、駅からは歩いて楽しい街並みをつくる。
- ・中心市街地の中央ゾーンは公共交通無料にする。
- ・軽食をとれるお店を。
- ・北側と南側を陸橋で結び一体感のある公園を望む。
- ・新美術館は既存の旧美術館の近くで良い。
- ・市役所庁舎は移転する。
- ・全体として光を入れて明るい公園にしてもらいたい。
- ・売店設置(休憩所)や子供遊具の増設をしてもらいたい。
- ・回りを走れるコースにし、ランナーのメッカを目指してほしい。
- ・駐車がしやすい公園が良い。(浜松は車社会である)
- ・浜松駅から浜松城公園まで緑道を設ける。
- ・展望広場などももう少し整備されていても良いのではないかと。
- ・都心部において貴重な緑だと思う。また都心のランドデザインを策定し、大きなエリアでの公園の位置づけを明確にすべき。
- ・浜松城の歴史を中心とした公園作り。
- ・ゾーン内の話しではなく、100年を見てゆるがない基本的なあり方を市民とともに決めてはどうか。
- ・市民文化創造とは何か、もっとじっくり意見を聞く場をあせらず持つて欲しい。
- ・まちづくりの中できちんと戦略的にプランをつくるべき。
- ・公園の基本コンセプトをしっかりと決めてから事業推進して欲しい。
- ・浜松城の魅力を上げることが一番。
- ・公園だけでなく、中心市街地と連携して盛り上がるような施策や活用、運営方法などがあると良い。
- ・費用対効果ソフト面、ハード面の事前検証を繰り返し実施しながら検討して欲しい。
- ・これから具体化するステップにおいて、市民を含めた「プロジェクトチーム」を作って進めて欲しい。
- ・市民不在で物事を進めないで欲しい。

公園愛護会の集いにおいて意見記入用紙によるアンケート調査を実施した。

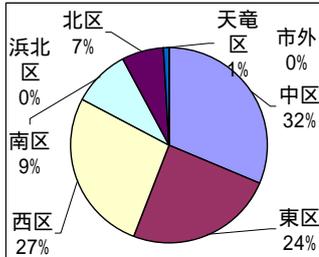
実施日：公園愛護会の集い【平成 25 年 1 月 25 日（金）】回答者数 141 名

### 公園愛護会の集いで実施した意見記入用紙の集計結果

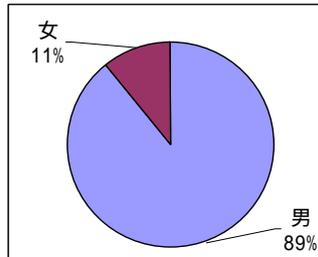
#### 回答者の属性

回答者数 141名(公園愛護会の集い)

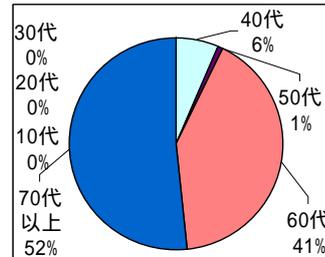
#### 居住地(割合)



#### 性別(割合)



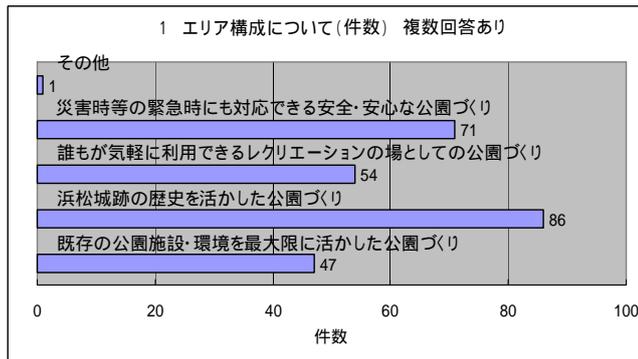
#### 年齢(割合)



#### 「浜松城公園の長期的整備に向けた考え方」についての設問

##### 設問 1 エリア構成(ゾーニング)について

長期的整備に向けた考え方では、対象地域の地形、歴史的な空間の役割、現状の土地利用、今後期待される役割等を考慮し4つのゾーンに区分しました。これからの浜松城公園を考える上で最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

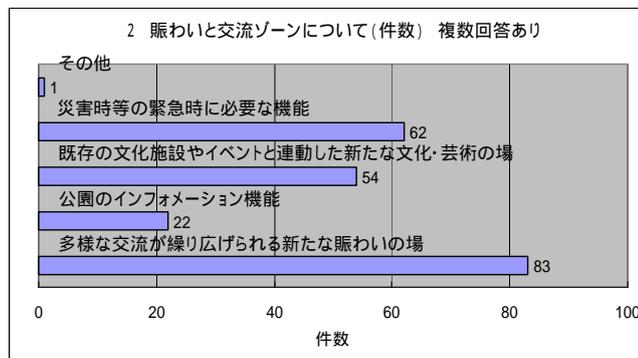


##### 設問の自由意見(抜粋)

- ・水辺機能を備える。浜松市の中心は緑と水辺がなく、潤いのない市となっている。
- ・樹種として公園範囲防火できる広葉常緑樹をめぐらす。
- ・駐車場を分散し、交通弱者も利用しやすくする。
- ・お金をかけず、永続性(理念、目標)を持った内容に。

##### 設問 2 賑わいと交流ゾーンについて

賑わいと交流ゾーンは、公園のエントランス機能と来園者の賑わいと交流の場を形成するゾーンとして考えています。賑わいと交流ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

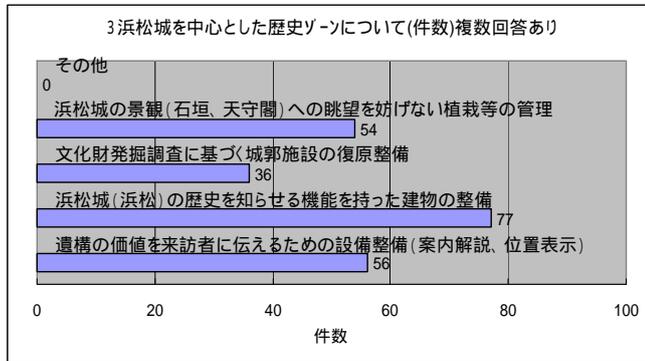


##### 設問の自由意見(抜粋)

- ・芸術文化の発信基地としての機能を持たせる駐車場も設置必要。
- ・建築物は最小限に。
- ・イベントの定着が大切。

**設問 3 浜松城を中心とした歴史ゾーンについて**

長期的整備に向けた考え方では、浜松城の史跡としての価値をPRし、次世代へ継承し、訪れる人々がその価値を学び理解できるゾーンとして考えています。浜松城を中心とした歴史ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

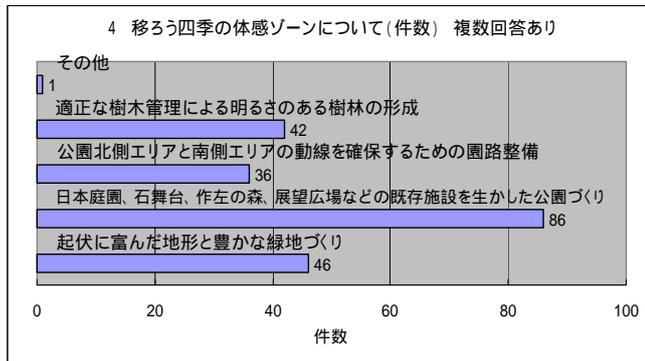


**設問の自由意見(抜粋)**

- ・家康居城として、静岡、岡崎を参考にすべし。
- ・大金をかけて城を再整備復原の意味はない。

**設問 4 移ろう四季の体感ゾーンについて**

長期的整備に向けた考え方では、起伏に富んだ地形と豊かな植生を活かした、うるおいの場としての快適なみどり空間を形成するゾーンとして考えています。移ろう四季の体感ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

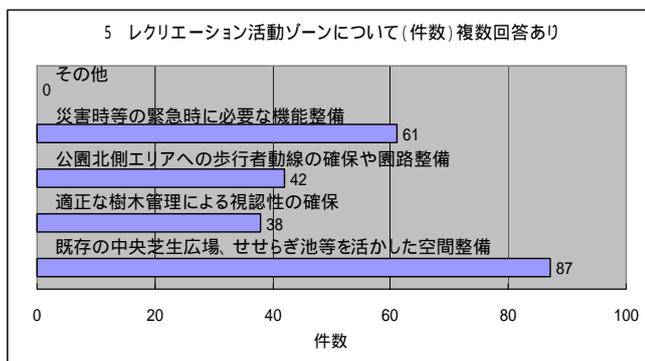


**設問の自由意見(抜粋)**

- ・例えば秋の紅葉、春の桜などが必要。

**設問 5 レクリエーション活動ゾーンについて**

長期的整備に向けた考え方では、開放的な空間を活かした、誰もが気軽に利用でき、レクリエーション活動の拠点として展開できるゾーンとして考えています。レクリエーション活動ゾーンに最も必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)

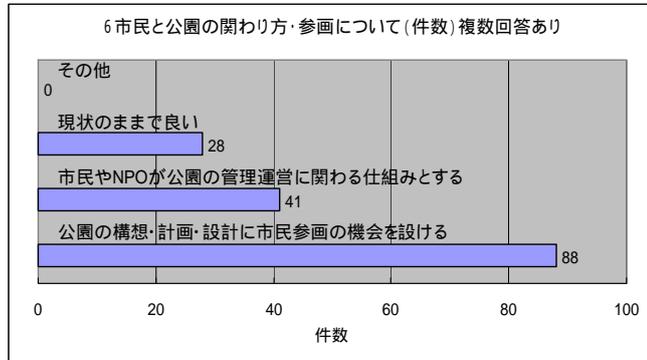


**設問の自由意見(抜粋)**

- ・自由使用が出来る広場を。(樹木と芝生が混在した空間)

**設問 6 市民と公園の関わり方・参画について**

長期的整備に向けた考え方では、様々な市民とのかかわりの中で着実に地域に根付く公園の形成を考えています。そのために必要と思われるものを選んで下さい。(複数回答可)



**設問の自由意見(抜粋)**

- ・駐車場を広くしたり歴史を学びながら散策できる公園とする。
- ・市の主人公は市民である。

**設問 7 浜松城公園に対する具体的な要望について(抜粋)**

- ・駐車場の整備。近隣地域との渋滞の防止。
- ・足元が歩きにくい。障害者でも最低、城の下まで見学が出来るようにしていただきたい。車イス等でも安心して行けたらと思います。
- ・ジョギングコース、ウォーキングコースの設置(外周などに)。
- ・浜松駅中心部から浜松城公園までつながっていけるような動線ができる様になれば、中心市街地の活性化にもつながると思います。(散歩道のような動線ができればいい)
- ・皆が集まりやすい公園(駐車場も含めて)を望みます。
- ・他市町から訪れたいと思われる公園にと思う。県外、個性のある公園。
- ・浜松城が出世城と呼ばれる歴史的な事象を視覚的にPRするようなものはどうでしょうか。
- ・公園を今以上に整備する必要があるのか。整備する目的が解らない。整備ならこうしたいという前に何のために整備するのか考えるべき。整備することを前提とした設問なので、答えにくい。
- ・市民が集い、県外、県内の外来者が気軽に寄れる公園にしてもらいたい。入り口も東西南北どこからでも入園できること。犯罪防止のため、方策も考えること。
- ・初めての人でも公園内に分かりやすく入れる案内。
- ・市中心の公園として、浜松の産業(楽器、バイク、繊維等)を紹介し、市外のお客を案内しても市民が自慢できるものにした。
- ・市民協働のまちづくりで一部の団体、人の意見に偏らない。

## 参考) 策定の経過

浜松城公園長期整備構想（素案）策定に当たっては、庁内委員によるセントラルパーク構想検討会を設けて協議を行った。検討会では、外部専門委員より意見を聴き協議を進めた。庁内調整部会は、検討会の円滑かつ効率的な運営のため、必要に応じて調整会議を開催した。

また、構想の策定にあたっては、専門家より提言をうけ、検討会にて基本構想（素案）をとりまとめ、平成24年度に関係部局との調整を進めながら浜松城公園の長期的整備に向けた考え方を取りまとめた。

その後、考え方をもとに市内3箇所において意見交換会およびアンケート調査を実施し、さらに公園愛護会の集いでアンケート調査を行い、すべての区の協議会においても報告を行った。

年月	会議等	主な内容
平成23年11月	第1回 セントラルパーク構想検討会	<ul style="list-style-type: none"> <li>経過及び現状</li> <li>基本事項の整理と課題の抽出</li> <li>基本構想策定スケジュール</li> </ul>
平成23年12月	元城小学校校庭（旧浜松城二の丸・御誕生場）の埋蔵文化財試掘調査	元城小学校校庭の一部における埋蔵文化財の試掘現地調査
	第2回 セントラルパーク構想検討会	提言の中間報告（安藤忠雄建築研究所）
平成24年1月	セントラルパーク構想検討会調整会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想（検討案）の検討 全体構想（テーマ）、基本方針、 空間構成（ゾーニング）</li> <li>元城小学校校庭二の丸跡確認調査（試掘）結果</li> </ul>
	第3回 セントラルパーク構想検討会	
平成24年2月	セントラルパーク構想検討会調整会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想（検討案）の検討 空間構成（ゾーニング）、土地利用計画、 市民参画、事業の進め方</li> </ul>
	第4回 セントラルパーク構想検討会	
平成24年3月	セントラルパーク構想検討会調整会議	セントラルパーク基本構想（素案）とりまとめ
	第5回 セントラルパーク構想検討会	
平成24年7月	関係部局との協議調整	美術館、公園課、生涯学習課、文化政策課、教育総務課、学校施設課
平成24年8月	関係部局との協議調整	市民部長、産業部長、都市整備部長、土木部長、学校教育部長、中区長、文化振興担当部長
平成24年12月	意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域情報センター、雄踏文化センター、なゆた・浜北</li> <li>区協議会（7区）での報告</li> </ul>
	報告	
平成25年1月	報告	公園愛護会の集い

## 参考) 構想区域内の試掘調査

### 元城小学校校庭(旧浜松城二の丸・御誕生場)の試掘調査結果について

#### 《調査の実施》

構想の対象地である浜松城公園周辺は、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)となっている区域である。特に元城小学校用地は城の中核部分である二の丸や秀忠が誕生した伝わる御誕生場にあたり、二の丸御殿(藩主の居所・政務所)や石垣・堀などの浜松城に係る重要な施設が地中に残っている可能性がある。

このことから、その残存状況を確認するため、校庭の南端部分や体育館の東側に幅2mのトレンチを4本掘り、埋蔵文化財試掘調査を実施した。

現地調査 平成23年12月5日～12月22日

調査場所 赤線で示した箇所

調査面積 200㎡



#### 《調査の結果》

- ・ 浜松城の御誕生場に位置すると思われる安土桃山時代(16世紀)の井戸が発見された。
- ・ 井戸からは、安土桃山時代(徳川家康が浜松にいた頃、秀忠が生まれた頃)の瓦や陶磁器(青磁、白磁、瀬戸美濃焼播鉢、かわらけ)などがまとまって出土した。
- ・ 井戸のほか、二の丸と思われる区域で溝や柱穴などもみつき、元城小学校校地の全域に浜松城二の丸・御誕生場にかかわる遺構が残っている可能性が高まった。
- ・ 江戸時代の浜松城絵図等から、元城小学校体育館付近に石垣をもつ堀(本丸と御誕生場・二の丸の境)が良好な状態で残っていることも予想される。

井戸から出土した16世紀の土器・瓦  
国産の陶磁器のほかに、中国から輸入された高級食器(青磁・白磁)も含まれる。



トレンチで確認した井戸  
御誕生場にかかわる井戸とみられる。直径1.6m、深さ2.4m以上におよぶ。

## 浜松城公園内の試掘調査結果について

### 《調査の実施》

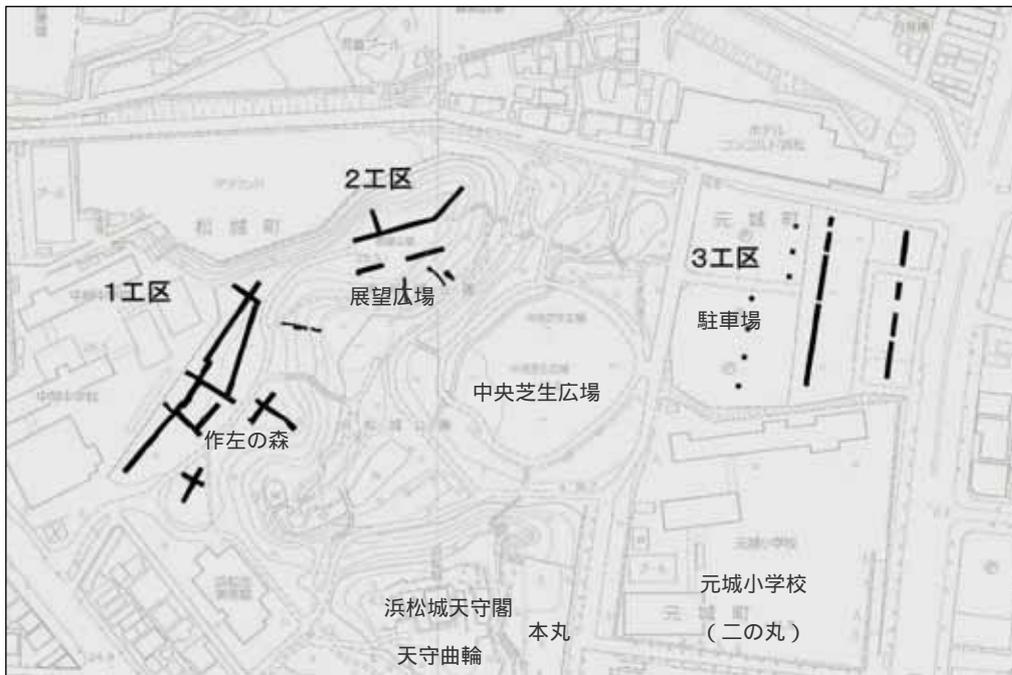
構想の対象地である浜松城公園周辺は、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）となっている区域である。そのため、浜松城公園長期整備構想の作成に併せて浜松城跡の確認調査を実施した。

調査区を 1～3 工区に分け、各調査区域内に幅 1～2m のトレンチを設定した。平坦部のトレンチは、表土や造成土を重機で掘削した後、人力で地山（基盤層）を精査し遺構検出を行なった。斜面部のトレンチ（1・2 工区の一部）は重機の進入が困難であるため、表土掘削から遺構検出までを人力で行なった。

現地調査 平成 24 年 9 月 14 日 ～ 12 月 27 日

調査場所 位置図 黒線で示した箇所

調査面積 約 1,400 m<sup>2</sup>



調査対象地位置図

### 《調査の結果》

**土層堆積状況** 調査区内の基本土層は①表土（現代の整地層もしくはアスファルト舗装）、②客土（造成土）、③赤褐色砂礫層もしくは黄褐色砂礫層（基盤層）の 3 層に大別できる。

ほぼ全域において基盤層を削平する形での造成が行なわれており、原地形を留めている部分はわずかであった。

**遺構** 1 工区：1-1 工区で溝 1 条、土坑 2 基、小穴 5 基を検出したが、時期は不明である。1-2 工区では溝 1 条、小穴 3 基を検出した。小穴には根固め石と考えられる礫が確認されており、戦国～江戸時代の柱穴になる可能性がある。

2 工区：平坦面のトレンチでは造成・攪乱が広範かつ深く及んでおり、遺構は確認されなかったが、斜面に設定したトレンチで古墳時代の横穴を 1 基検出した。この横穴は昭和 39（1964）年

に調査された「作左山横穴」を再確認したものである。

**3 工区**：調査区の大部分において近現代の掘削工事が2m以上の深さで及んでおり、遺構は残存していない。わずかに確認できた基盤層でも遺構は検出されなかった。

**遺物** 表土・造成土から近代以降の瓦や陶磁器などとともに江戸時代の陶磁器が出土しているが、遺構からの出土はみられなかった。また、2 工区で再確認した作左山横穴の埋土からは戦国時代のかわけ・陶器が出土している。

**結語** 今回の調査の結果、1 工区の南東部では戦国～江戸時代に遡る可能性のある小穴などの遺構などが確認できた。また、2 工区の斜面地では過去に調査された横穴を再確認できた。横穴は単独での立地は考えにくく、同一斜面に同様の遺構が存在する可能性がある。3 工区は近現代の掘削工事が深く及んでおり、遺構の存在は確認できなかった。



1-2 工区遺構検出写真  
〈東から〉



出土遺物写真